

演 題	「でっかいテレビはいいなあ！」
副 題	ストレスの少ない生活環境を目指す

フリガナ	ミノリノサト カイゴロウジンホケンシセツ アサヒガオカ
施 設 名	みのりの里 介護老人保健施設 旭ヶ丘
フリガナ	カイゴフクシシ オオカワラ トモミチ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 大河原 知道
フリガナ	ナラシマアツシ ホカイツカイシヨクインイチドウ
共同研究者	檜嶋淳史 他一階職員一同

【はじめに】

私達のフロアは半数の方が軽度の認知症を患っているが、概ね軽介助で自立に近い方が暮らす。

近年、携帯電話や趣味道具、個室に限りテレビ持参の方もおり、入所者の嗜好に合わせる努力もしているが、施設という集団生活の介護環境下では持ち込みにも制約を設けているのが現状である。

要介護での集団生活はストレスや我慢も多い事を十分承知している。しかし、その要因となる制約などを完全に取り除く事は出来ない。

【目的】

日常では、個室でテレビ鑑賞、読書や塗り絵、オセロに花札、囲碁将棋をして過ごす方がいる。一方共有フロア設置のテレビを見て過ごす方は少数であった。古いテレビは地デジ化で画面が収まらず字幕も読みにくい為、大半は横になって過ごすのが日常であった。

「テレビを何とかできないのか」。2年前、カラオケ機器の第一興商「FREEDAM」を試験導入しカラオケや音楽体操に活用、導入に繋がった。付属の大型モニターの映像や音声は目や耳に届きやすく大勢が参加する。その効果を根拠に大画面テレビの導入を提案、広い三つの共有フロアに大画面テレビが導入されると日常生活は一変した。

【結果】

鮮明な映像と音声でフロアは活気づいた。歌番組やバラエティ番組は好評で、夕食後就寝準備が済むとテレビ前に自主的に集合する。昼間の情報番組でも「これは美味そうだ」「こんな事件ばかりだ」「こんな事があったの?」「ここは昔行ったな」と記憶を辿るような会話も盛んになった。

難聴の男性Aさんは筆談がコミュニケーション手段の為、居室に籠りがちだったが、導入後は自発的にテレビの前で過ごす時間を持つようになった。音は届かずとも映像と字幕で楽しめる為だ。下肢拘縮が強く昼夜臥床気味の女性Bさんは、テレビを見たいとフロアで過ごす事が増えた。その意欲は車椅子の座位保持に繋がり、姿勢崩れで介助を要した食事も今は自力摂取である。数名の女性はおしゃれにも

精を出し早朝から化粧をする。どんな番組があるのかと新聞の隅々にまで目を通すのも日常になった。

【考察】

大画面テレビ導入で生活は一変した。夕食後は寝てしまう日常であったのが、今は多くの方がテレビ前で賑やかに過ごす。番組ごとに集まり広いフロアを車椅子や徒歩で行き来し、交流も盛んだ。

番組に合わせて生活スケジュールを立てる方もいる。更に数か月前から多数の方が早朝のテレビ番組の体操を自主的に行っている。きっかけは一人の女性のリハビリへの欲求への働きかけだったが、その輪は自然に広がり、今やBさんもその一員である。発語の少なかったBさんだがよく笑い、簡単な会話も楽しめるようになった。

この状況は、自主性や自発性により、わずかかもしれないが集団生活の環境下でもその人らしい日常の構築に繋がっている。ADLや認知機能維持の手助けにも繋がっていると感じる。

早起きしおしゃれをする。皆で体操をする。ニュースから世間の出来事を話題にする。好きな番組で笑い合う。自発的な交流とコミュニケーションが活発になり、回想法のごとく経験談や記憶の再生などの効果も生んでいる。

一方、テレビには関心を示さない方も少数いる。その方々が何を望んでいるのか、今以上に一人一人に目や耳を傾け、日頃の観察に努める必要がある。

【終わりに】

皆さんから課題も提示されている。録画機器や歌や時代劇の豊富なBS設置の要望だ。一方で、俺の席から見づらい、音量やチャンネル争いなどの主張もあり、日々対応に当たっている。

これまでも要望や気付きから環境改善を図ってきた。リハビリには強度の不十分な手すりの改修や立位の取りやすい手すりの設置だ。日々の気付きを提案し生活環境の改善に繋げている。

施設生活・集団生活という制約や不自由と感じる要因を出来るだけ除去し、楽しみやスタイルを可能な限り維持し実現できる様、利用される方の日常の場として今後も環境改善に取り組みたい。